

# セネガルのイスラーム神秘主義教団ムリッドにおける「バイファル」

—修行のための村「ダーラ・タルビヤ」における宗教実践—

平成 26 年入学

派遣先国：セネガル共和国

池邊 智基

・キーワード：セネガル、イスラーム神秘主義、ムリッド教団、宗教実践、オーラル・ヒストリー

## ・対象とする問題の概要

セネガル共和国のイスラーム神秘主義運動ムリッド教団には、一般信徒ムリッドと異なる「バイファル Baye Fall」というグループが存在する。バイファルは 19 世紀末の教団成立時から、教団内で「労働」を担うとされる一派である。バイファルの創始者はムリッド教団の創始者アマドゥ・バンバ(1850-1927)の弟子であるイブラ・ファル(1858-1930)であり、バイファルの宗教実践は、イスラームの五行である礼拝(サラア)、断食(ラマダーン)を行わず、指導者マラブーに「仕え *njebbel*」、「労働 *liggey*」することであるとされている。

先行研究はムリッド教団の歴史や、教団の経済を支える「祈り」と「労働」の思想に注目するものが多い。その中にはバイファルの宗教実践にアプローチした人類学的研究も少ないながら存在するが、その多くが「バイファルとはなにか」という命題に答えるものであり、セネガルにおけるイスラームの歴史との関連、過去から現代にかけての変遷に注目したものはない。また、地方都市や農村での実践に注目したものも見られない。

## ・研究目的

すでに 2 ヶ月間の予備調査を行っており、それを踏まえて今回は 6 ヶ月間の調査を行った。今回の渡航では、まずバイファルの宗教実践だけでなく、彼らのライフヒストリーから得られた情報をまとめた。そしてそのマラブー(イスラーム指導者)の「語り」から明らかになったグループごとの宗教実践の違いを調査した。具体的には、バイファルが作るコミュニティの一つンディゲル村(ルーガ州ケベメル県)に長期滞在した。調査村は 1988 年に一人のマラブーによって作られ、弟子のバイファルらが移住することでできた村である。筆者は各世帯の親族関係や移住のきっかけなどを聞き取り、また彼らの村内での活動を観察した。さらに、広域調査として、首都ダカールとその他の地方都市にあるバイファルの修行拠点「ダーラ」を観察した。

## ・フィールドワークから得られた知見について

セネガル各地には、上記の「ダーラ」と呼ばれる宗教共同体が存在する。これは一般には「村」を指す言葉であり、コーラン学校を指す言葉でもある。人口の約9割がムスリムのセネガルでは、ほとんどの村にモスク、クルアーン学校が存在している。宗教共同体「ダーラ」はイスラームの教育を深めるタルビヤ（修行）の場として、ムリッド教団成立初期より作られてきた。一般信徒だけでなく、バイファルも修行のための村としてダーラを形成している。

今回の渡航では、聖典クルアーンと祖アマドゥ・バンバの著作「ハサイド xasside」という2つの文書だけでなく、それぞれのマラブー（指導者）のオーラル・ヒストリーが、バイファルの教義の伝承において重要な役割を果たしていることがわかった。これによって、数多く存在するマラブーの独自の語りごとに、信徒の間で「ずれ」が生じていたのである。また、観察した共同体（ダーラ）ごとに、宗教実践の内容やバイファルらの語り、儀礼における所作にも違いが生じていた。ただしこれらの違いはあるものの、彼らはムリッド教団、また教団内部のバイファルとしてのアイデンティティを共有し、聖者バンバ（とその子孫）を通してアッラーを信仰していた。

その理由として、オーラル・ヒストリーとして語られる「バイファル」像には、一般信徒ムリッド（礼拝や断食といったイスラームの五行に沿った実践）とは異なり、はっきりと決まった「労働」の形がないことが挙げられる。都市ではマラブーに上納するため「托鉢 maajal」をするバイファルが多くいる一方、村落で共同農業をするバイファルもいる。その労働形態は、共同体ごとのマラブーが語る、「バイファルの開祖イブラ・ファルはこのように働いた」という言葉をもとにしている。このように、明文化された信仰体系が存在していないことが、現代のバイファルの姿を形成していると筆者は考える。

様々な宗教実践を通してバイファルはマラブーのために働き、アッラーとの合一（ファナー）を達成した存在「Goor Yallah（神の男）」となることを目指す。それら労働は礼拝や断食といった「形式的」な行為ではなく、精神的なあり方を求める行為なのである。バイファルにはこのような、形式性を排した精神性重視の志向が存在し、それが上記の宗教実践の「ずれ」の原因となっていると考えられる。

## ・今後の展開・反省点

今回の渡航では、現代のムリッド教団とバイファルの宗教実践に注目した。しかし、植民地期以前、植民地期、そして独立後における西アフリカのイスラーム化の歴史については、まだ文献調査を進めていないのが現状である。フィールドワークで得た知見に、イスラームの歴史的な変遷に関する文献調査も加え、考察することによって、博士予備論文としてまとめたい。



写真1：首都ダカールのバイファル



写真2：各地に存在する居住地「ダーラ」



写真3：調査村で行われるシカル（ズィクル）